

TOWN TOPICS
5/13 土ママさんバレー ボール
須恵第三 優勝!

第54回全国ママさんバレー ボール大会福岡県予選会(一般社団法人全国ママさんバレー ボール連盟、朝日新聞社主催)が行われ、須恵第三が優勝しました。

優勝した須恵第三のメンバーは「コロナ禍におけるさまざまな制約の中、家族と自分の健康を守りながら競技に向き合ってきました。地区・県予選を勝ち抜き、チーム一丸となって掴み取った全国大会への切符です。バレーを通じて須恵町で出会った大好きな仲間(26~73歳)と共に、最高の舞台に立てる環境を作ってくださったたくさんの人に感謝し、全国の強豪ママさんとの試合を存分に楽しみ、挑みたいと思います。今後ともご支援のほどよろしくお願いします。」と話されていました。



優勝した須恵第三の皆さん

TOWN TOPICS
5/14 日

アビスパ福岡 須恵町応援デー開催

アビスパ福岡と須恵町が結んだフレンドリータウン協定に基づき、ベスト電器スタジアムで「Jリーグ アビスパ福岡VSサガン鳥栖 須恵町応援デー」が開催されました。

試合は接戦の末に惜しくも引き分けましたが、当日はたくさんの町民が観戦し、J1の舞台で戦うアビスパ福岡の選手への応援で盛り上りました。また、試合前には須恵アザレアFC 中島 悠獅くんが花束贈呈を、試合中は須恵高校サッカー部がボールパーソンをそれぞれ務めました。



須恵アザレアFC 中島 悠獅くんによる花束贈呈



あいさつをする平松町長

TOWN TOPICS
5/22 月「ふれあい朝ごはんの会」が
開催されました

須恵第三小学校区コミュニティ ふれあいレインボーで、須恵第三小学校在籍の児童を対象に「ふれあい朝ごはんの会」が開催されました。ふれあいレインボーでは、将来的に地域の人が利用できる地域食堂の開催を目指しており、今回はその実現に向けての試行的な取り組みとして開催されました。当日は保護者の皆さんのご協力もあり、約50人の児童たちに栄養たっぷりの朝ごはんが提供され、児童たちは元気に登校していました。



朝ごはんを食べる児童たち

広報すえ | CONTENTS

Vol. 672 2023年 7月号・目次・

- 2 久我記念館
- 3 まちの話題
- 4 夏休みアザレアロードショー
- 5 イベント・スポット情報
- 6 まちの史跡めぐり
- 8 後期高齢者医療についてのお知らせ
- 10 介護保険料額決定通知書を送付します
- 11 手話奉仕員養成講座受講生の募集について
- 12 町制施行70周年特別企画 わがまちランキング
- 14 子育て支援課からのお知らせ、学校教育課からのお知らせ
- 15 紛失警察署だより、みんなを守る119、商工会だより
- 16 役場からのインフォメーション
- 18 若杉クラブだより、俳句・川柳
- 19 わくわくデイサロン、消費生活110番
- 20 情報いろいろ
- 22 図書館だより
- 23 ハッピーバースデー、乳幼児健診・さんさぽカレンダー
- 24 まちの情報カレンダー 休日当番医、水道指定業者 アザレアホール予定表他
- 26 令和5年度新規採用職員募集のお知らせ

今月の
表紙 切磋琢磨

今月号の表紙は、須恵第一小学校での運動会の様子です。紅組・白組の応援団長による気迫のこもった口上を写真に収めました。全ての小中学校で熱戦が繰り広げられており、切磋琢磨して勝利を目指す児童・生徒たちの姿が印象的でした。

関連ページは4ページ

美術センター
久我記念館
☎ 932-4987

—企画展のご案内—
月曜日休館 祝日の場合は翌日休館
入館無料 開館時間: 10時~17時
(最終入館時間は16時30分)

令和5年度 須恵町町制施行70周年記念事業・福岡県立美術館所蔵品巡回展

「移動美術館展 アート、すえひろがり。」

プレ展示会(その1) 「黒田家家紋入りの須恵焼」 11月3日(金)~26日(日)

福岡県立美術館の所蔵品の展示会を久我記念館で実施します。今月号から展示予定の製品を紹介します。第1回は須恵焼です。

須恵焼は、江戸時代の1764(宝暦14)年、肥前陶磁の影響で始まり、1902(明治35)年ごろまで約140年間焼かれた磁器です。創始者は、福岡藩の寺社奉行に所属する新藤 安平という武士です。

新藤は、藩の鉱山関係の仕事に従事していた時に、須恵で焼き物に適した土を発見しました。この土で焼き物を作れば、やがて藩の名産品となり、今までお世話になった殿さまに恩返しができると考え、須恵焼を始めました。写真にあるように、黒田家の家紋である藤巴や黒餅を描いた製品があります。まさに藩の「磁器御用窯」であった証といえます。

個人事業から始まった須恵焼の生産は、後に福岡藩の藩窯(磁器御用窯)となり、須恵皿山役所が設置されました。幕末期には、藩の殖産興業に取り上げられ、技術の粋を尽くした製品が焼かれました。窯跡は、大字上須恵に現存しており、県内では最大規模を誇ります。

黒田家家紋入りの須恵焼(久我記念館蔵)▶

